

授業改善書

科目名	日本史学入門
担当者	湯浅 吉美

授業の概要

山川出版社の『もういちど読む 山川日本史』を教科書に使用、大卒社会人として常識的と考えられる日本史知識を身につけることを目指している。内容は、原始・古代から始めて、戦国時代(中世末期)に至る。回ごとに、分量にして教科書10ページ内外を音読しながら、適宜、補足説明や余事を加えた講義としている。「入門」という性格上、かなり大まかな話とならざるをえないものの、所期の目標には合致しているであろう。

評価については、講じた範囲から、歴史名辞(人名、法令や事件の呼び名など)を答えさせる筆記試験を実施した。とくに、漢字で正しく表記できることを必須として、厳しく採点している。(平均50点台)

授業の問題点

同じ内容の講義2コマであり、アンケート回答の傾向も概ね類似している見えるので、以下、2コマに共通するものとして記述する。

回答においてポイントが低いのは、「授業外学習をしたか?」と「質問・発言をしたか?」との2点である。ポイントの低いことが直ちに問題点であると短絡的に考えるつもりはないが、一応は検討しておく。

まず「授業外学習」については、教科書の該当部分を事前・事後に読むよう指示しているが、まず実行されていないらしい。根が高校日本史の教科書だと思って(実はかなり違うが)、甘く見ているのではないか。

次に「質問・発言」については、講義形式のため、そもそも発言は求めている。内容的にもさまで高度なものではないので、質問も出にくいと思われる。ただし、わずかながら質問に訪れた学生もあったが、講義内容に直接関わるのではなく、個人的興味に基づく事々であった。元来、日本の歴史ということに関心が薄いかと思われる。

授業改善の課題・方策

本科目で例年指摘されるところの「板書がわかりにくい」という批判は、今回は見られなかったもので、一応の改善が奏功したものと受け止めている。

問題点①「授業外学習」に対しては、しっかり実行するようにと繰り返すしかないけれども、担当者としても、たとえば指名して音読させるといった工夫が必要かと考えている。これは以前にピアレビューでも示唆されたことであったが、いまだ実現していないので、早急に検討したい。ただ、履修者数が多い教室では実行しにくいのも事実である。また、期末の試験ばかりでなく、途中で何回か小テストを実施することも有効かもしれない。

問題点②「質問・発言」に対しては、質問はともかくも、発言を活発化することは難しいと思う。何分にも中・大教室を使った多人数の、講義形式の授業であるから、一人二人に発言を求めても、講義そのものの活性化にはそれほどの効果を期待できないであろう。また実際、過去には発言を求めたこともあったが、ほとんどの場合に、学生が立ち往生してしまったという苦い経験もある。とはいえ、立ち往生に陥りにくいような発問を工夫することにより、発言や応答を求め、以って講義の活性化を目指したいと思う。

一方、質問については、もともと内容が常識的、すなわち、確立された史実のみを採りあげているため、疑問の余地少なく、質問は出にくいと考えられる。しかしながら、今後は異説などの片鱗を示すことにより関心を惹きつけ、質問を誘導することも、試みる価値がある。喰い付いてくれればの話であるが…。

その他、アンケートではおおよそ4ポイント台が多く、それなりに好評であったかと思うが、これに慢心することなく、たとえばヴィジュアル的な要素を導入するといったことも検討したい。開学から間もない頃にはそのような形態で実施したこともあったけれど、実はあまりうまく運ばなかった。一段の創意工夫を要する。

さらに、根本的に内容を刷新することも視野に入れている。つまり、現在のように「常識的知識の修得」を目指すのではなく、歴史学的な「物の見方・考え方」を伝授するような講義を考えてみたい。

その他

このような場で記すことは、いささか穏当を欠く気もするが、やはり敢えて書いておく。それは、いくら何でも知識が低すぎる、ということである。鎌倉幕府を開いた人物の名を「源頼朝」と正しく漢字で書けるなど、苟も大学に学ぶ学生として、当然ではあるまいか。「豊臣秀吉」「鹿苑寺金閣」に至っては正解者のほうが少ない。それらしい字が書いてあっても、点画が不明瞭で、いわゆるウソ字が氾濫している。「疑わしきは罰せず」、「まあいいよ、いいよ」で通過してきた挙げ句の体たらくだと思う。いかほど不評を買おうと、今後も「疑わしきは×す」でゆくつもりである。悪しからず、ご諒解願いたい。